

第 96 号 2016. 9. 28

誰もが慣れ親しんだ地域の中で
安らいだ暮らしが続けられるために

知多の暮らしを結ぶ

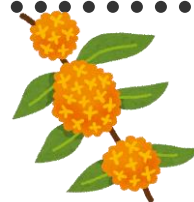
—自分で選ぶ生き方の実現を願って—

社会福祉法人 愛光園

知多地域障害者生活支援センター らいふ

発行責任者： センター長 三宅 和人
〒470-2102
知多郡東浦町大字緒川字寿久茂 129
TEL 0562-34-6609 FAX 0562-34-6618
E-Mail life@aikouen.jp
URL <http://www.aikouen.jp>

障がい児支援は、今…？



知多地域障害者生活支援センターらいふは、誰もが慣れ親しんだ地域の中で安らいだ暮らしが続けられることを願い、そして自分で選ぶ生き方の実現を願い「知多の暮らしを結ぶ」を発行しています。実施事業によって支援を担うエリアが異なっていますが、願いは知多半島全域に届けばと思っています。

制度が目まぐるしく変わる中、子どもに視点を当ててみますと、障がい児へのサービスに関して新たな地域格差が心配されています。格差がいけないということを言っているのではないのです。高い水準での格差は切磋琢磨の積み上げがあってよいのですが、サービスが「ある・ない」の議論ですと、これは大きな問題です。

少数派の障がい児の療育については、新聞紙上はもちろん、市町の中でも話題として取り上げられることが少ないため、課題を地域と共有することがなかなかできません。障害児等療育支援事業の受託時からの願いであった、知多半島圏域での障がい児への支援体制整備では、知的障がい児等の支援体制については各市町での取り組みが進み、受け入れの体制が整いつつあります。

しかし、肢体不自由児については、事情が違いました。東海市のご尽力により知多半島圏域の肢体不自由児のために運営されてきた「あすなろ学

園（医療型発達支援センター）」が平成30年をめどに規模を縮小することになりました。医療型から福祉型の発達支援事業に変更され、原則東海市在住のお子さんの受け止めで、定員がいっぱいになると思われます。あすなろ学園は昭和46年から45年間にわたり、肢体不自由児の支援を担っていただきました。専門的なノウハウによって多くの親子に支援と希望が提供されました。

肢体不自由児は市町単位ではさらに少数なので、これまで市町での事業化が進みませんでした。しかし今後あすなろ学園に通えない（原則？）ため、これからは市町で考えていくこととなります。すでに肢体不自由児の支援環境を新しく整えた市、新規の計画が進んでいる市、既存の事業での受け止めを考えている市町、当面对象となる子どもの姿が見えないため、長期計画で考えようとしている町もあり、対応は様々です。

また、子どもへの支援は住み慣れた町で、見通しが立ちつつありますが、親御さんにとっては市町に分散することで同じ立場の親御さん同士の支えあいの場がなくなります。日常的に声を掛け合うことで心の支えとなります（ピアエンパワメント：仲間と一緒に元気になる）。親子で相反することになります。

療育は親子で育ちあうことが大切です。大きな

宿題が残ることになります。障害児等療育支援事業でもできることを考えていきます。提案をしていければと思っています。公助・共助・自助、みなさんと一緒に考えていきたいと思っています。

三宅 和人

障害児等療育支援事業

「今年も中高生本人向け『しごと研究会夏祭り編』を行いました！」

昨年度に引き続き、中高生向けに「しごと研究会夏祭り編（全2回）」を実施いたしました。目的はひかりのさと夏祭りのしごとを体験することです。1回目は7/30（土）に知多地域障害者生活支援センターらいふで実施し、6名の参加がありました。しごと研究会夏祭り編1回目の内容はメンバーの自己紹介、知多地域就業・生活支援センターワークの安井氏から「しごとってなに？」の講演、夏祭りのしごと役割決め、コンビニで働いている人の観察と買い物でした。参加メンバーはメンバー同士で知り合いもいましたが、初めて参加するメンバーも居て、初めは少し緊張感がありました。でも安井氏や職員がメンバーの好きであろうことを話題にすると、少しずつ表情がリラックスし、メンバー各々が好きなことを伝える、絵を描く等、それぞれのペースでメンバー同士や職員へアピールする様子が見られるようになりました。役割決め、あいさつの練習後、コンビニへ買い物。職員が「次は買い物です。」とサークルKの写真を見せると急にテンションが上がるメンバーたち。持ってきたお小遣いから好きな物を選んで買い、コンビニの帰りには買った品物の説明等、メンバー、職員で交流し合う姿が少し積極的になっていきました。

家庭でもなく、学校でもなく、いつもと違う場所と人でちょっと楽しいことを一緒に経験できたことはメンバーにとって、貴重な経験になったかと思います。

8/20（土）にひかりのさと夏祭りがありました。しごと研究会夏祭り編2回目はメンバーがひかりのさと夏祭りの模擬店のしごと体験でした。

しごとをするお店は金魚すくい、みたらし団子、かき氷の三店舗。メンバーは一人、二人と分かれていましたが、しごとを体験するお店の職員から作業を割り振られて、それぞれの配置につき、夏祭りがスタートしました。夏祭りは時間が経つごとに人が増えて、それぞれのお店にお客さんの行列ができました。



金魚すくいは二人のメンバーがしごとを体験。職員やボランティアさんと二人組になり、金魚をすくう「ポイ」とお椀をお客さんへ渡し、お金をもらうしごとでした。金魚すくいの周りはずいぶんお客さんでいっぱいになりました。金魚がすくえなかったお客さん（主に子どもたちでした）へ渡す金魚を、お客さんに選んでもらうために「どの金魚がいい？」とやさしく問う背中はとてもかっこよかったです。



みたらし団子は大忙し！一人のメンバーがしごとを体験。メンバーのしごとは焼いた団子をタレにつけて、職員へその団子を渡すという流れがある作業でした。次から次へと来るお客さんのためにどんどん団子をタレに付け続けるメンバー！持ってきたエプロンはタレまみれになりましたが、とても活躍しました！



かき氷でもみたらし団子同様、すごいお客さんの行列ができました。二人のメンバーがかき氷のしごとを体験。職員がお客さんにシロップの味を聞き、「聞いた味のシロップを氷にかける」→「ストローを刺し、お客さんに渡す」という流れでした。役割は途中で交代しましたが、しごととはんやわんやの大忙し！職員がお客さんの注文を聞き忘れた時にメンバーが覚えており、職員へ教えてくれる場面もありました！大忙しの中、お客さんから伝えられた味のシロップをかけて次のメンバーへ急いで氷を渡す時、表情がひきしまり、その姿は、“しごとを任されている”という気持ちが見えて、メンバーのたくましさを感じました。

メンバーは夏祭りの準備も含め、二時間半の労働を終えてしごと体験を終了しました。メンバーのしごと内容はそれぞれでしたが、しごとの流れを把握し、一生懸命働き、しごとを楽しんでいる様子が見られたかと思えます。

参加されたメンバーのご家族のご協力もあり、

しごとが終わった後にメンバーは、給与を受け取りました。給与は働いた対価です。それぞれが好きなものを買ったかと思えます。それも含めて「しごと」につながることを感じていただけたらと思います。

今回のしごと研究会はバザー編として実施します。今後もしごと研究会は継続していきたいと考えています。しごとを研究したい人達は是非ご参加ください！

(植田)



障がい者就業・生活支援センターワーク

きんろうかんしゃの集い ～安心して働き続けるために、を考える勉強会と交流会～

働く方達の勉強会・交流会「第18回きんろうかんしゃの集い」を、9月10日(土)東浦イオンホールにて、開催しました。知多半島中から39名が参加。普段それぞれの職場でお勤めの皆さんが、同じ会場に集まり熱気のコもった光景に、スタッフ一同、心地よい高揚感を感じました。

午前の勉強会は、東浦防災ネットの皆様を講師にお迎えして「今からできる地震への備え」がテーマでした。過去に起こった震災の実際の映像…津波が押し寄せ、街が崩れたり、火災が発生…が映し出されると、この世の終わりのような光景に怯える方もみえましたが、これまで震災に遭った経験がない方にとっては、地震で街や家がどうなるのイメージをリアルに感じられたと思います。印象的だったのは、「地震が起こることは避けられないけれど、日頃からの対策をしておけば、被害を小さくすることが出来る」という言葉。家庭では、家具の固定、非常持ち出しグッズの準備、職場でも避難場所の確認、家族への連絡方法などを、改めて確認する機会になりました。

本人講師の発表では、介護老人保健施設東海にお勤め8年目の秋田和夫さんに「働き続けるためのコツ」をお話ししていただきました。秋田さんは、おしぼりたたみ、レクリエーションの補助、おやつ準備・片付け、掃除の仕事をされています。秋田さん流の働き続けるコツその①は「職場の人と仲良くやること」。仕事に必要な声を掛け合うことはもちろん、職場の方と趣味の話をして、コミュニケーションをとってみえます。働きやすい雰囲気づくりを大切にされているそうです。コツその②は、「楽しみがあること」。秋田さんは、大のプロ野球ファン。発表の次の日も、東京まで大好きなチームを応援に行くことを生き生きと話してみえました。グループホームでの生活の風景からも、好きなこと、楽しみなことは働く力の素であることが伝わってきました。

午後は、恒例のグループ交流会を行いました。就職1年目の新人の方から、勤続10年を超えるベテランの方まで混じっての座談会。話題に出たのは、午前中の勉強会の内容の感想、日頃から震災への備えはしているか、避難先はどこか知っているか等。また、ある悩み「休み明けの出勤は体がだるい」に対して、「休みは体を休める」「仕事の前の日は早めに寝る」という自分の経験から話してくれる方もいました。5つのグループごとに、大いに話題が盛り上がり、最後にグループで話した内容を全体発表していただきました。



仕事の都合で残念ながら参加できなかった方々、来年のきんろうかんしゃの集いでお待ちしております。また、仕事で悩み相談してみようかと思われたら、お気軽にご連絡ください。ワークスタッフ一同、お待ちしております。（田口）

東海市・知多市・阿久比町・東浦町

障がい者総合支援センター

「障がい者総合支援センター」が、
10年を迎えました！

平成18年10月に障害者自立支援法の施行に伴って、東海市・知多市・阿久比町・東浦町の障がい者の相談窓口として、私たち社会福祉法人愛光園の支援センターらいふと、大府市にある社会福祉法人憩の郷のキャンパスが協同で委託を受けました。

2市2町で2ヶ所の事務所を設け、新たに採用された職員、別の事業所から異動してきた職員、そして他法人の職員というように相談員8名体制でスタートしました。

私は当時、1か月前に異動してきたばかりの新人で、そもそも「らいふ」という事業所が何をしているところなのかわからないまま、先輩相談員について動いていました。初めてのケア会議では全然進行ができない私を、参加いただいている支援者から助け舟を出してもらって進行したことや、なかなか制度理解や地域情報がなく、その場で答えられない私に気長にお付き合いくださった当事者、ご家族に見守られながら、気が付けば10年経過しました。

10年間、人が入れ替わりながらもこの体制が維持できたことを今から振り返ってみると、話し合いの場を大切にしてきたことが大きかったと思います。

何もない中でのスタートで、最初に考えたのは

相談員同士の会議の設定でした。今でも変わらず月2回行っていますが、当時はそれに加えて、他部署との会議が2回加わり、相談員同士が顔を合わせる機会が毎週のようにありました。

会議の中では、事業の報告や個別相談の報告がメインでしたが、必ず会議は全員が発言する（意見を言う）暗黙のルールがあったり、相談報告もそれぞれの相談員がどう支援しているかを共有し、複合課題があったり、見立てが難しい課題については、別で時間を設けては事例検討会を持ち、困ったことは皆で考える仕組みが出来ました。

相談員はそれぞれ個別に動いていることが多いですが、8名体制（平成22年より9名体制）で支え合い、協力しながら継続できたところが大きかったと思います。

10年を迎えた今年、この広域の相談体制の見直しが始まっています。10年前はゼロから始まった障がい者の相談事業ですが、10年経った今、高齢者支援の中で始まった地域包括ケアシステムを軸に、障がい者も子供も含めて各市町単位で動き始めています。障がいのある方の保護者が要介護者となり、介護保険の相談員と一緒に動くケースが増えてきたように、いろいろな支援者とつながって、地域での生活を安心できる一助となれるように考えています。

新しい体制の中でも、話し合いの場を大切にしていって、支援を続けたいと思います。（西岳）

らいふ 直接支援

4月より、約1年8ヶ月の産休・育休から復帰いたしました。まずは、長い夏休みを乗り越えられて一安心しています。お休みをいただいている間、特に女性利用者の皆様にはご迷惑をおかけしたと思います。また、皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

さて、私がお休みをいただいている間にらいふ直接支援には様々な変化がありました。今回はその変化や気づいたことをお伝えしたいと思います。

まず大きな変化は「放課後等デイサービス」が始まったことです。私がお休みに入る前は、まだ準備段階でどのような形になるのか想像もつきませんでした。現在2年目のサービスですが、担当スタッフはプログラム充実のために日々打ち合わせをしています。プログラムの充実が利用者さんの経験に繋がり、将来の選択の幅が広がっていくことになると思います。

放デイと同じく、学齢期の利用者さんのサービスとして「日中一時支援」もありますが、こちらも夏休み期間のプログラムが以前よりも充実していました。水遊びや工作がメインでしたが、工作では風鈴、プラバン、ネックレス、水に浮かぶ金魚・・・など種類が増え、夏休み期間中に多くの活動を体験できるようになっていました。

同じことの繰り返しは安心感もありますが、活動によっては飽きてしまうこともあると思います。安心していただけることはもちろん、来ることが楽しいと思っただけの場所になるように日々の支援を見直ししながら、よりいいものにしていきたいです。

利用者さんの様子にも変化を感じました。まずは、体の成長です。成長期真っ只中の方々は縦にも横にも大きくなられていました。顔つきも精悍になられ、一瞬誰だか分からないほどでした。そして何よりも内面の成長です。コミュニケーションの方法が増えたり、自分の過ごし方を見つけて落ち着いて過ごすことが出来るようになった方、以前は気になるものを見つけると走り出してしまっていたのに、我慢できるようになった方。スタッフ中心で担当させていただいていた方が、複数のサポーターとの関係性を築き笑顔で過ごすことができていた様子もありました。大人になっていく過程を間近で見ていると、その大切な時期に支援に入らせていただくことの尊さ、重要性を

考えさせられます。らいふが関わることのできる時間はご本人の生活の一部に過ぎないかもしれませんが、その一部分が全体に影響していくことを忘れず、利用者の皆さんへ向き合っていきたいと思います。

(竹下)



◇運動クラブ ふいっと◇

今年の夏も暑い日が続きましたね。9月に入りまだまだ暑い日は続きますが、日が沈むのが早くなったと感じる今日この頃です。

今年度のふいっとの活動は5回開催されました。活動の内容自体は、昨年度と大きな変わりはありません。やはり一番人気はパラバルーンの活動で、他の活動中は各々過ごされている方も、パラバルーンの時間になるとメンバーさん全員が参加されます。

今年度に入り変わったことといえば、昨年度継続して来てくださっていた学生ボランティアの方の多くが卒業され、今年度に入りボランティアに来てくださる方々がガラッと変わりました。今まで障がいのある方とのお付き合いがない方や、身内に障がいのある方がいて少しでも力になりたい、といった方々をご参加いただいております。



運動クラブふいっとでは、年1回ボランティアさん向けの勉強会を実施しており、今年度は6月2日に開催されました。今回のテーマは、「てんかんについて」と「自閉症の方とのお付き合いのヒント」の2つです。新しくボランティアに来てくださる方が多い中で、ふいっとの活動の中でのヒントになればと思い、お伝えさせていただきました。自閉症の方の疑似体験もしていただき、わからない言葉を言われ続ける気持ちのしんどさや、手先の不器用さなど初めてわかったとのお言葉をいただきました。

今後もボランティアの方々と一緒に意見交換をしながら、メンバーさんの気持ちに寄り添い楽しい活動を続けて行きたいと思います。

【ご案内】

毎年恒例の遠足を3月4日(土)に行ないます。行き先はあいち健康プラザを予定しております。周りの方でボランティアに興味のある方がいましたらぜひお声かけお願いいたします。(矢野)

☆お知らせ☆

ボランティアさんを随時募集しています。知的障がいのある仲間たちと一緒に体を動かして楽しみませんか?リズム体操や、パラバルーンなどみんなで楽しめるプログラムになっています。

また年に1~2回お出かけのプログラムを予定します。

連絡先 TEL : 0562 - 34 - 6293

E-mail : life-neco@aikouen.jp

(ふいっと担当 : 矢野、袴田)

職員募集

共に働く仲間を求めています!

詳しくはホームページをご確認ください

<http://www.aikouen.jp/>